

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1797号 2005年10月03日(月)

《 We Love Japan 》

注目された午前8時50分発表の日銀短観は、前回+18の大企業製造業DIが+19に、前回+15の大企業非製造業は横ばいとなった。今回の大企業DIについては、事前の予想(平均値)では製造業が+20、非製造業が+17だったので、結果はそれよりも悪かったことになる。しかし予想より悪かったものの、企業収益の増大が続く中で、企業の先行きに対する相対的な楽観論は持続していることが判明したと言える。

発表された数字で分かるのは、日本経済は原油高などの影響があっても、慎重な企業心理を抱えながらも、まずは順調な拡大基調を続けていると言うことである。不健全な財政など死角がないわけではない。しかし、外需が旺盛なのに加えて、内需が徐々に盛り上がってきている。これは、消費者の間に90年代に見られたような「根拠なき日本に対する悲観論」が消えつつあり、日本経済の先行きに対する楽観論が強まっているからである。

日本の勤労者が先行きに自信を深めても不思議でない状況は顕著になりつつある。例えば、最近の新聞を見ると有名会社の求人広告が所狭しと並んでいる。筆者が一番驚いたのは「みずほ銀行」の求人広告だ。日本の巨大銀行3社が合併した銀行で人材が不足していると言うことは、日本経済が置かれた雇用状況が良く分かる。質、量とも足りないと言うことだ。中でも各社が足りないのは「質」でしょうが。

こうした求人広告の増加を見れば、日本経済がまだら的是ではあるかもしれないが、「人手不足」「人材不足」に陥っていることは明確である。こうした求人動向と全般的な好況感が、消費者の消費意欲を盛り上げている。

この週末に我が家に届けられた日経ビジネスのメイン・テーマは「起こせ！ジャパンインパクト 目覚めた日本人」であり、表紙も見出しページにも背景には赤字で「We love Japan」とくっきり書いてある。一雑誌の特集に過ぎないが、「日本力」(講談社)を書いた筆者のところには、最近インタビューの要請が絶えない。「Sapio」というような一般雑誌からも「日本に対する見方をお聞きしたい」という要請が来る。

ということは、「日本に対する悲観論」をずっと追っていた日本のマスコミも、ようやく今の日本の上り坂を悟り始めた、「楽観論で売ろう」と決意した証拠である。これは筆者や世の中のビジネスマンなどから言わせれば「後追いの認識」だが、こうしたマスコミの態度の変更も、世の中の楽観論を強めるだろう。

こうした中での市場の特徴は、このニュースで何回も指摘している通り、「株高・円安同

居」である。先週はドル・円相場が113円の後半まで下落した。今朝も113円台での展開となっている。海外から東京市場の株高狙いで資金が入ってきてても容易に円高が期待できない中で為替予約を入れての資金の日本への投入となっているようで、これに加えて日本の投資家の海外への資金分散は加速している。こうした状況下では、筆者が何回も指摘しているとおり、調整局面を織り込みながらも「株高と円安」が共存する状況が続くと考えるのが自然である。

今週の主な予定は以下の通りです。

10月3日(月)	日銀短観 9月新車販売 米8月建設支出 米9月ISM製造業景況指数 米9月新車販売
10月4日(火)	郵政民営化法案審議開始 米8月製造業受注 米フィラデルフィア連銀総裁講演
10月5日(水)	米9月ISM非製造業景況指数 米8月中古住宅販売 英中銀金融政策決定会合(～6日)
10月6日(木)	ECB理事会
10月7日(金)	8月家計調査(全世帯) 8月景気動向指数(速報) 米9月雇用統計 米8月卸売在庫

注目はやはり米9月の雇用統計でしょうか。カトリーナなどの影響がどうアメリカ経済に影響しているかが分かる。同国の経済指標はこのところ消費関連で弱いものが多い。先週発表された数字もそうだし、景気信頼感にも低下が見られる。そういう中での雇用統計は、今後のアメリカ経済の先行きを占うものになるだろう。ニューヨークの株価は比較的しっかりした動きだが、この指標次第ではやや方向が変わるかも知れない。

《 have a nice week 》

土日ともえらく天気の良い、そして日曜日が顕著でしたが、暑い週末でした。土曜日は富士山麓へ、日曜日は狭山湖畔に行ってそれぞれ野外で結構な時間を過ごしたのですが、暑かった。まるで夏に逆戻りしたような印象。狭山湖畔に行ったのはお墓参りに行ったのですが、トトロの森も暑そうでした。

今週は短観もあり、やや短めでした。それでは、皆様には良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail ycaster@gol.com) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》